

新しく「ライフ」開設

デジタル版に新しく「ライフ」のジャンルがオープンしました。医療・健康（アピタル）、Reライフ、介護、食・料理、はぐくむ、教育、就活、そしてエムスターも収容しています。最新のニュース一覧のほか、連載やコラムも満載です。日々の暮らしの助けになるような情報をまとめたコーナーとしてぜひご活用ください。

<http://t.asahi.com/jhqL>

42

新しく「ライフ」開設
デジタル版に新しく「ライフ」のジャンルがオープンしました。医療・健康（アピタル）、Reライフ、介護、食・料理、はぐくむ、教育、就活、そしてエムスターも収容しています。最新のニュース一覧のほか、連載やコラムも満載です。日々の暮らしの助けになるような情報をまとめたコーナーとしてぜひご活用ください。

「よか隊ネット」が、代表の佐藤彩巳子(51)が肺塞栓症（エコノミークラス症候群）で死亡したことが大きく報じられた。「対策を急がねば」と、メンバーは危機感を募らせた。だが、どこにどれだけの車中避難者がいるのか、誰も実態を知らない。「ならば自分たちで調べよう」

アンケートに乗り出した。熊本市や益城町などを回り、駐車場で声をかけた。副代表の高木聰史(48)は当初、「避難で疲れ、口を開いてもらえないかも」と懸念していた。予想は外れた。多くの避難者が調査に応じた。30分、1時間……。時を忘れ、つらさや不安といった胸のうちを語った。「何か要望は？」と尋ねると、「話を聞いてくれるだけでも嬉しい」と感謝されることさえあった。

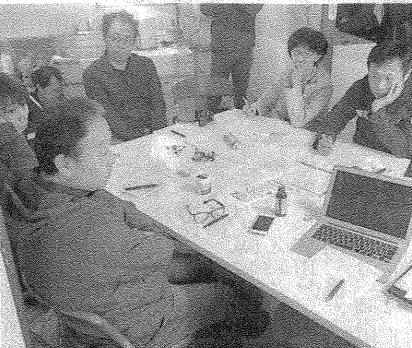
4月26日～5月4日の第1次調査で約30人所を訪ね、計131人から回答を得た。

行政の説明や聞き取りは「まったくなかつた」「あまりなかった」が合わせて8割を超えた。熊本県・市は地域防災計画に車中避難の想定がなく、手が回っていなかつた。車中避難する一番の理由は、家に住めなくなったことより、「再び大きな地震があるのでは」「余震が続いているのが不安」と答えた人が多く、計6割ほど。都市機能は急ピッチで復旧したが、それだけでは日常をとり戻せない人が多い。高木たちは「被災者」と一くくりにせず、ニーズや状況に応じた支援が必要」と、車中避難者の話に耳を傾ける夜間巡回を続け、協力を募り始めた。

佐藤も本震から半月過ぎてなお、自宅に戻った。車中泊が激しくなり、長時間いられないと動悸が激しくなり、車の運転の笑顔が消えた。佐藤も本震から半月過ぎてなお、自宅に戻ると、車中泊が激しくなり、長時間いられないと動悸が激しくなり、車の運転の笑顔が消えた。佐藤も本震から半月過ぎてなお、自宅に戻った。車中泊が激しくなり、長時間いられないと動悸が激しくなり、車の運転の笑顔が消えた。

「处方箋」は意外などこるにあつた。5月の連休中、駐車場を離れ、夫の実家へ農作業の手伝いに出かけた。夜は布団で足を伸ばし、ぐっすり眠った。気力が回復。帰ると、あれほど怖かった家で眠れるようになった。

「爆睡が効いたのでしよう」と振り返る。新潟から駆けつけた医師がいた。（佐々木亮）



支援策を話し合う=「よか隊ネット」提供

<http://www.seishun.co.jp/> 青春出版社

青春出版社 〒162-0056 東京都新宿区若松町1-1

●書店にない場合は以下のフリーダイヤルからもご購入いただけます。(表示価格は税別、送料別)
ブックライナー ☎ 0120-39-8899 ブックサービス ☎ 0120-29-9625

●「総合病院ならオールマイティ」は本当? ●「手術が多い病院のほうが安心」で大丈夫? ●「クスリを出さない医者は名医? ●専門医と総合医、どちらが上? ●開業医は大学病院の医者より下? ●よく話を聞いてくれるのは名医? ●賢い医者とのつき合い方」65の「ツ!

医者のかかり方は損です

●誰も教えてくれない、あなたに合う
その「かかりつけ医」の見つけ方

「患者さんの常識が医者には非常識なことがあります」とある。

●「かかりつけ医」の見つけ方

●「手術が多い

●「クスリを出さない医者は

●「名医? ●専門医と総合医、どちらが上? ●開業医は

●「大学病院の医者より下? ●よく話を聞いてくれるのは名医? ●賢い医者とのつき合い方」65の「ツ!

B6変型判 1100円+税

978-4-413-03961-1

03(3203)5121 青春出版社 Fax 03(3207)0982
医師 長尾和宏 話題の2冊

がんは人生を二度生きられる

主治医には、けっして聞けない
がんよろず相談室

「落ち込んでいる貴方へ、得体の知れない不安がスッと消えるはずです」

町医者として20年以上診療していると、がんの宣告を受けたり、がん治療がつらくなつて泣きながら診療室に駆け込んで来られる方が実に多いです。多くの人は、「がん=死」とイメージしています。しかし本書でお伝えしたいことは、「がん=死」では決してないことです。むしろ、「がん=第二の人生の出発点」であることです。

「第二の人生だって? きれいなことを言うな!」と言う人もいるでしょう。でも本書には、きれいなことは一切ありません。

町医者の本音ですから、本当は公開したくもないし、そもそもするつもりもありませんでした。はじめにより

978-4-413-11168-3

第3種郵便物認可